

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 【健康科学部】

健康科学部では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

- (1) 初年次に行われる1群科目には、英語、数学、理科系科目（化学・生物・物理）の学力差を解消し、さらに専門科目への理解を深めるための科目を配置する。
- (2) ICT、データサイエンスに関する知識の理解を深化させ、自らが扱うための技術として定着させるための情報科学の数理的基礎に関する科目を配置する。また、情報を扱う上で必要な倫理観と社会での役割について理解する科目も配置する。
- (3) 初年次には自己を深く理解するとともに他者及び地域社会への高い関心を醸成し、豊かな人間性を形成するために、文化・社会・健康などの多様な科目も配置する。また、両学科合同の科目を配置し、学生が学科間で交流を深めることができるように配慮する。
- (4) 2年次以降は各学科の専門科目を基礎的な科目から段階的に実践的な科目へと移行し、習熟度を向上させ、自らの力で課題を解決する能力を身につけるために演習・実習科目を配置する。
- (5) 4年次には修得した知識・技術を統合し、課題を解決する能力を身につけるための科目を配置する。
- (6) 専門性の高い科目や医療の現場の状況をリアルタイムで教授することが、知識・技能の向上に有益である科目に関しては、本学医学部、薬学部、看護学部、医療衛生学部等の学部ならびに北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターの附属医療施設の協力を得て教育を行う。
- (7) 学習成果の評価は、科目ごとのシラバスに記載する成績評価の方法と基準により設定し、筆記及び実技の試験に加え、授業で課すレポート、発表、プレゼンテーションを含める多面的な評価を実施する。また、学修ポートフォリオにより学習成果を可視化し、適切な教育指導を行う。

### 【看護学科】

健康科学部看護学科では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

- (1) 地域に暮らす人々と協働し、人々が住み慣れた場所でその人らしく生きることを支援する能力を養うために、1年次からまちづくりや地域で暮らす人々にふれるための科目群を配置し教育を行う。

- (2) 看護の基盤となる豊かな人間性と深く幅広い教養を身につけ、人々との関係性を築く能力を培うために、一般教養科目を必修科目にするとともに、文化・社会・健康などの多様な科目を配置し、自らが目標をもって主体的に学ぶ機会を提供する。
- (3) 1年次から講義・演習・実習のつながりをもたせ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護した倫理観を養うための教育を行う。
- (4) 社会や医療のニーズを理解し、科学的根拠に基づいた看護を提供するための臨床判断能力を養うための教育を行う。
- (5) 看護専門職として自ら学び続け、研究的視点を持ち、ICT等を活用しながら看護の質向上を図るための基礎的能力を養うために、ICT、データサイエンスに関する知識や技術の基本的知識を修得するための教育を行う。
- (6) 保健・医療・福祉などあらゆる場において、看護専門職としてチーム医療を推進する基礎的能力を養うために、他学科と共通プログラムで教育を行うなかで、早期から多職種を理解し、チーム医療の基礎を学ぶための教育を行う。

#### 【医療検査学科】

健康科学部医療検査学科では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- (1) 豊かな人間性と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を目的とし、幅広い分野の一般教育科目を必修科目にするとともに、異なる医療職種の理解に繋がるよう、他学科と共通プログラムで教育を行う。
- (2) グローバル社会に適応できる人材の育成を目的とし、異国文化について学び、多様な背景や異なる価値観を理解する機会を提供する。
- (3) ICT教育を充実させ、情報処理能力およびプレゼンテーション能力を強化するとともに、データサイエンスならびに医療AI関連の基本的知識を修得する教育を行う。
- (4) 専門的知識および実践的技術を体系的に学べるような科目配置とし、職業意識を早期に醸成する目的で、1年次より専門科目群を配置した教育を行う。
- (5) 進行する高齢化に伴い必要性が高まる在宅医療の場において、チームケアの一員として患者や家族が抱える問題を理解し、在宅検査が実践できる臨床検査技師を目指し教育を行う。
- (6) チーム医療の実践に必要な専門的知識および多職種連携に必要な能力を修得するための教育を行う。
- (7) 修得した医療および臨床検査に関する知識・技術を総合し、課題解決の能力の修得を目指した教育を行う。